

リスク管理

情報システムを開発・導入する際、開発規模や難易度等の要因により、数カ月から数年の準備期間が必要になる。プロジェクト開始時に作成したスケジュール通りに目標とする情報システムを稼働させるためには、実効性の高いプロジェクトマネジメントを着実に実施することが不可欠である。実行性を高めるためには、作業項目を漏れなく洗い出すとともに、この作業それぞれにスキルを保有した担当者を割り当てることが求められる。開発遅延リスクの低減の可否は、プロジェクト開始時点で決まる。

◇

自社の情報システム化を推進する際、開発作業をITベンダーに委託する企業は少なくないであろう。この場合、ITベ

リスクマネジメント

A B C

情報システムの開発・導入

プロジェクトにおける計画の作成例

作業項目	イン プット	アウト プット	担当		予定期間		実績		
			部署	担当者	開始日	完了日	開始日	完了日	進捗率
1.	-	-	-	-					
1.1	-	-	-	-					
1.1.1									
1.1.2									
1.1.3									

1週間程度で完了する作業量にする

何をもとに、何を作成するのかを明確にする

作業担当者を特定する

予定に対する実績および進捗率の管理により、進捗状況を的確に把握する

緻密な計画を事前に作成

ベンダー側でプロジェクト計画を作成し、この計画に基づいて開発進捗の報告を行うことが一般的である。しかし、この計画では、自社側で実施する作業が詳細化されているとは限らない。ITベンダーが委託側の内情を十分に理解していない場合

「誰が」、「いつまで」といったレベルまでに計画を落とし込むことは容易ではないからだ。この「落とし込み」作業は、ITベンダー作成の計画をもとに、自社の参加メンバーの投入可能時間や関連スキル、経験等を把握した上で自ら行う

また、進捗率の管理により、作業遅れの予備軍を早めの段階で把握し、遅れが他の作業に影響を及ぼす前に対策を練ることが可能になる。

べきことである。先の「落とし込み」作業によって「誰が」、「いつまでに」、「何を」行うのかを予め明確にしておくことで、各担当者がやるべきことを的確に認識することができる。また、開発進捗の管理担当者には、開発進捗が遅れが生じたときの原因の究明や対策の策定を行い易くなる。

例えば、前倒しで完了した作業と遅延している作業を把握し、遅延している作業の支援に担当者充てることも行い易いだろう。逆に、「落とし込み」作業を行わないと、作業担当が不明確となり、担当者が自分のやるべきことを把握しきれずに作業の対応漏れが発生するなど、開発進捗の遅れの真の原因が見えにくくなることが想定される。